

病害虫発生予察注意報第3号

病害虫名：モモせん孔細菌病

- 1 発生予想 モモせん孔細菌病の秋期感染（越冬伝染源）が多くなる恐れがある。
- 2 対象地域 県下全域
- 3 根拠

- (1) 巡回調査ほ場の定例調査において、モモせん孔細菌病は6月下旬に急増し、7月上旬では平年の約1.8倍の発病葉率となった(図1、図2)。収穫期には果実病斑も各地で多くみられた(図3)。
- (2) 病原菌の密度が高まっていることが予想され、枝の表皮組織や落葉痕へ感染する秋期感染（越冬伝染源）が多くなると考えられる。

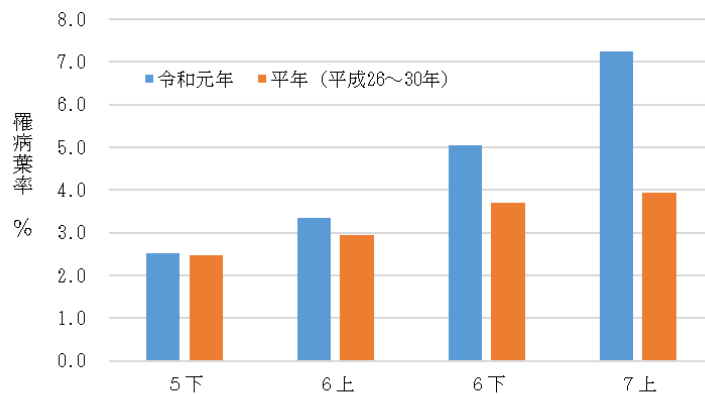


図1 モモせん孔細菌病発病葉率の推移 (10調査ほ場)



図2 葉の病斑



図3 果実の病斑

4 防除対策と留意点

- (1) 春型枝病斑となる枝への秋期感染を防止するため、登録のある殺菌剤(表1)を9月中旬(収穫後)から2週間間隔で2~3回散布する。なお、台風などの強風や降雨により感染が助長されるので、薬剤散布は風雨前に実施する。
- (2) 秋期防除前には、薬剤がかかりやすいように秋季せん定を行っておく。
- (3) 翌春の春型枝病斑のせん除や開花直前からの定期防除の徹底を図る。
- (4) ネクタリンについても、ももに準じて防除を徹底する。

表1 もも、ネクタリンのせん孔細菌病に対する秋期防除薬剤

品目	薬剤名	希釈倍率
もも	4-12式ボルドー液	—
	I C ボルドー412	30倍
ネクタリン	I C ボルドー412	30倍

令和元年9月1日JPPネット確認

長野県病害虫防除所
丸山秀樹(所長) 堀道広(担当)
TEL: 026-248-6471(直通)
FAX: 026-248-6473
<http://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>